

# 会報 ふれあい

平成28年4月1日

第195号

発行 せきがやふれあいの会

※電話相談・簡単修理は、月曜～土曜(午前)自治会館にお電話下さい(Tel.784-4447)。主に高齢者向けです。  
※ふれあいの会の催しに、車椅子で参加される方のお手伝いをいたします。事前に自治会館にお電話下さい。

## 簡単修理事例



27年度ふれあいボランティア実績 (合計37件) ( ): 昨年度実績				
電気関係	日曜大工	庭の手入れ	ゴミ出し	その他
22 (26) 件	7 (13) 件	4 (1) 件	0 (0) 件	4 (5) 件

相談は全部で44件ありました。相談内容によって私達には対応できなかったり、ご自分で解決されたケースもあり、結果として37件実施できました。なお一般のかたご自身でも解決可能なもの、または知っておいて役立つ情報などを「簡単修理事例」として毎月紹介しています。事例を読んでそれなら自分でも出来るよ、という方が私達の仲間に加わっていただけたらたいへん嬉しいです。(坂口)

【訂正】2月号の記事「水漏れ応急処置」の図4 ドライパー式止水栓の「開」と「閉」の回す向きですが、時計回りが「閉」でその逆が「開」です。

4月は「ちびつ子集まれ」に来てくれたお友達も幼稚園と巣立って行きました。ちびつ子寂しくなりましたが、また新しいお友達がきてくれることでしょう。0歳児から未就学児の集まりです。ママ達も情報交換の場として大いにご利用下さい。いつからでも、どなたでも遊びにいらしてください。お待ちしております。(鈴木)

日時: 4月8日、22日(金)10:00~11:30 場所: 自治会館1階(Tel.784-4447)

## ちびつ子集まれ「平成28年度上期日程」

平成28年	4月8日(金)、22日(金)	平成28年	7月22日(金)
	5月27日(金)		8月26日(金)
	6月10日(金)、24日(金)		9月23日(金)

### 円海山歩く会

4月の計画 集合場所: 奥座公園 出発時間: 午後1時半(雨天中止)

- ★4月4日(月) 行程時間=約1時間半  
奥座~関谷奥見晴台~自然観察センター◎~上郷森の家(大島桜)~関ヶ谷
- ★4月15日(金) 行程時間=約2時間半  
奥座~動物園裏口~おおよと休憩所◎~NHKFM送信所~護国寺◎~峰市民の森◎~栗木(向坂バス停)~(神明バス停)~(北谷バス停)~関ヶ谷  
※トイレは公共交通機関を使うので、パスモ等をお持ち下さい。 ◎トイレ
- ★5月2日(月) 奥座~草舞台公園◎~関ヶ谷市民の森~パークタウン~白山道~釜谷七号緑地~関ヶ谷

### 第12回「喫茶ふれあい」へのお誘い

「喫茶ふれあい」は、どなたでもお茶とお菓子をいただきながら自由に会話を楽しめる気軽な場所です。暖かなお出掛けしやすい季節となりました。春の日の午後のひと時をご一緒にお茶を飲みながらおしゃべりの花を咲かせてみませんか。皆様のご利用をお待ちしております。

日時: 4月19日(火)1時30分~4時(ご都合のよい時間にお越しください。)

場所: 自治会館1階

料金: 無料  
(コーヒー、紅茶、お茶、お菓子を用意しています。)

問い合わせ先: 入野、池本

\*ご意見、ご要望がございましたらお寄せ下さい。

前回(2月3日)

### 第21回紅花会の集い(認知症の人と家族の会)の集い

春らしく暖かくなってきました。衣を一枚脱いで、心も体も軽くなりたいですね。認知症の人の徘徊によるJR列車事故の最高裁判決は、介護家族に安心と元気を与えてくれました。ただしあくまでも個別対応による判決であって、これから色々な場合により、違った方向へいくかもしれません。でも認知症の人の徘徊という行為について、より多くの人に知って頂けたのは、よかったですと思います。みんなが必ず徘徊するわけではありません。がそのご家族は一所懸命介護しようと思えば思う程大変です。

日時: 平成28年4月25日(月) 午後1時30分~午後3時30分

会場: 西金沢地域ケアプラザ1階 地域ケアルーム

会費: 無料(お茶とお菓子を用意しています) ※初めての方、事前にお電話下さい。中山

### 第54回「ふれあいティータイム」

#### 懐かしの映画上映会「グレンミラー物語」

1953年アメリカ映画(1時間55分)  
バンドリーダーとして活躍したジャズミュージシャンであるグレン・ミラーの生涯を描いた音楽映画の傑作。

トロンボーン奏者の青年グレン(J・スチュワート)は、新しい音楽を創り出そうと情熱を傾けながらも苦しい生活を送っていた。やがてベン・ボラック楽団のオーディションに合格、その演奏旅行の途中で女友だちのヘレン(J・アリソン)と再会する。その後も努力を続けるグレンだったが、自分の音楽にはヘレンが必要だと悟り結婚。妻の助けを受け、作曲の勉強に励みながら楽団を結成。遂に自分のスタイルを確立した。人気も出て、幸せな生活を送りはじめたが・・・

他にもルイ・アームストロング、ジーン・クルーバら往年のジャズメンも出演し、素晴らしい演奏を見せている。

日時: 4月25日(月)午後1時半~3時半ごろ

場所: 自治会館1階 会議室

会費: 無料 ※申込み不要(当日自由にお越しください)

問合せ: 栗原

## 風の大地パタゴニア 思い出の地

昨年11月から12月にかけて用事があって米国に行くことになった。この時期、米国はすでに寒い冬。どこへ行くか？ そうだ、南半球は初夏。足を伸ばしてパタゴニアに行こう！ 滞在地のアトランタからブエノスアイレスへ飛び1泊。翌日、パタゴニアの玄関口であるエル・カラファテまで飛び、さらにバスで3時間ほどのエル・チャルテンへ。途中の旅籠で休憩したとき、東京まで2万1千キロという標識を見つけ「遠いな！」。チャルテンの町は強い風、1年中吹きまわっているそうだ。夏というのに寒い。

いよいよパタゴニアで最も有名な山フィッツロイとセロ・トールをめぐる2日間のトレッキング。1日目はセロ・トール方面へ。朝は好天でフィッツロイがよく見えたが、セロ・トールは雲に覆われていた。高山植物、野鳥、氷河の痕跡などを楽しみながらセロ・トール直下のトール湖近くまで行ったが、セロ・トールから吹き下ろす砂礫交じりの強風が襲われ、やむなく引き返した。2日目はフィッツロイへ。この山は「煙の山」と言われている。いつも太平洋側からの強い西風を受け、山頂付近は雲がかかって見えないことが多いというが、ラッキーなことにも風も弱く1日中大岩壁を眺めながら歩くことができた。コースは標高500mから1000mの美しい森の中を行く。フィッツロイの標高は3400mで、その森からいきなり2500mの岩壁が聳え立っている。頂上直下の垂直な部分だけでも1200mある。そしていくつもの険しい岩壁を登っている。この日はフィッツロイをいろいろな角度から、また、時間とともに変わりゆく山や空の色彩を堪能することができた。夕刻町に戻り、すぐバスでカラファテへ。翌日、チリのバイネへ行く。朝迎えにきたのは、メルセデスのバス、といってもトラックの荷台にキャビンが載せたようなオフロード用のゴツツイやつ。乗っているガイドとドライバーもそうとうゴツツイ。ドライバーはプロのラリードライバーとのこと。まさにトラック野郎！ どんなドライブになるのか？ カラファテからバイネまで6時間くらい聞いていたが、このバスは途中からショートカットし、デコボコのダートコースを飛ばしに飛ばした。おかげでバイネ国立公園入口まで3時間足らず、スリリングかつ疲れるドライブとなった。

バイネで半日ほどのトレッキング。色とりどりの湖に囲まれたバイネ・グランデ、トール・デル・バイネ、クエルノス・デル・バイネ、遠く白いアンデスの山々。空はあくまで澄み切っているが、凍ったような感じの濃いブルー。そして強い西風にたびたびレンズ曇る。

バイネの山小屋に1泊し、カラファテに戻る。このときは正規？のコースで6時間ほどのドライブだったが、途中の風景は今回の旅行の中で最も印象に残る。どこまでも続くパンパ、冷たく浮かぶレンズ曇り、いくつもの広大な湖が現れ、それぞれ水の色が変わっていく。はるか彼方にはフィッツロイ、セロ・トールその他数え切れないほどの山々が鈍く光っている。「地の果て」を実感した。そしてパタゴニア最終日、有名なペリトモレノ氷河へ。高さ50mを超す氷河末端の壁は圧倒的な迫力であり、その濃い透きとおったブルーが美しかった。

何か思いつきで行ったような旅だったが、風の大地、嵐の大地と呼ばれるパタゴニアの一端に触れることができ、楽しく中味が濃い旅になったように思う。それにしても、日本を出てから帰るまで、2週間で8回のフライトはきつかったようで、帰国後しばらくのあいだ体が動かなかった。

河野

フィッツロイ

## ミュンヘンでの思い出 思い出の地

ドイツのミュンヘンはビールで有名だが欧州特許庁が置かれている都市でもある。この地で行われた特許紛争は、私のサラリーマン時代の最も懐かしい出来事であった。昭和50年代・60年代はソニー、松下など日本の電気メーカーが米国のメーカーを抑えて最盛期を迎えていた。ビジネス的成功の一方、米国企業に多額の特許違約金を支払ったニュースが新聞を賑わし、結果的に日本の技術力が基礎の浅いモノマネと印象を与えた。

ビデオテープレコーダ(ビデオ)は日本のお家芸であったが、そのビデオに関しても大きな特許事件があった。幸い、最終的に日本メーカーが勝った為に新聞で大きく報道される事は無かった。

米国のコダック社は、1988年ソニー、松下、日立等多くの会社を特許侵害で訴えた。特許の内容は狭いギャップ長の磁気ヘッドを使う磁気記録装置に関するもので、このような磁気ヘッドは最新の画質ビデオに広く使われていた。当時の新聞によると、特許違約金は1,000億円に近い数字になると言われた。

特許の言う狭いギャップ長の磁気ヘッドの利用は、磁気記録装置が高密度化してゆく技術トレンドの自然な結果と多くの技術者は思っており(直感的に言えば、小さな字を書くには小さなペン先のペンが適する事に似ている)、特許が成立すると思われなかった。ところが、特許は面白いもので、発明者が自分の発明を強く信じ、その内容を公知に無い文章で規定する事が出来れば、特許として成立する事になる。信じられないことに、この特許は米国と日本で成立し、その段階で日本企業が特許侵害で訴えられた。

特許係争は日本、米国、欧州の3地域でそれぞれの地域の文化的特徴を反映する形で進められた。私は特許庁の審理が終わっていない欧州特許の技術支援をする事になった。欧州特許庁の審理の特徴の一つは、公開の口頭審理である。事前に双方の言い分を書類の形で往復させ、最終的に公開の口頭審理が行われる。口頭審理では、参考として実験を行うことも出来る。1992年の口頭審理では学会賞を受賞した事もある発明者が効果的な実験を行った。この実験は特許庁のみならず、当方の弁護士にも強い印象を与え、ほぼ特許権者の勝ちは見えた。ホーププロイハウスの反省会とは思えない沈んだ雰囲気であったと聞く。

幸い、欧州特許庁は直ぐには結論を出さず(欧州は慎重で時間が掛かる)審理はその後続いた。我々は代理人の十分な技術的理解が必要と考えミュンヘンを度々尋ねた。その結果、現地の弁護士と仕事を越えた友情を感じるまでになり、個人的にもミュンヘンを深く楽しむ事が出来た。

数年後、代理人の技術理解も進んだ頃、最終の公開審理を迎える事になった。最終審理の数ヶ月前に発明者は新たな主張と新しい実験データを提出してきた。決定的な実験に思えたが、丁寧に分析すると実験は都合の良いデータだけを取り出して示した可能性があることが分かった。

万全の準備をして口頭審理に臨んだが、発明者は我々が反論として示したデータ列の最も小さな値が特許の主張する点であり、更に小さな電流に対してもその値が保持されると主張した。そこで、我々は休憩時間に更に小さな電流のデータを追加することにした。短時間に実験装置を組み上げ精度の良いデータを出すのは名人芸を要する事だが、我々の研究者は見事にデータを追加した。新しい点は我々が主張する理論直線の上に追加された。代理人の女性弁護士は鼻高々でそのデータを提出した；「お望みなら、何度でも取れます！」。

その日の反省会でドイツ人弁護士の一人は「こんなにチームワークの良い仕事は始めてだ。依頼人には悪いが、この審理が終わらないで欲しい」と上機嫌に言った。この美味しいイタリアンレストランの反省会の3ヶ月後、我々は、コダック社からこの特許および提訴を取り下げるという通知を受け取った。

野呂

筆者 上段左から2人目